

影響度が中以上のリスク・機会一覧

<現行シナリオ>（凡例）短期：2027年頃、中期：2030年頃、長期：2050年頃

リスク/機会	属性	気候関連事象 （中～長期）	事業への影響	主な財務的影響	影響度評価
リスク	慢性	気候パターンの変化	・天然ゴムの木の生育可能地域変動、品質低下 ・電力供給体制の不安定化 ・化石燃料の需要拡大	・原材料価格の上昇（天然ゴム） ・研究開発費の増加（代替原料） ・売上の減少（タイヤ減産） ・物流費の増加	中～大
		温度の上昇	・道路状況の悪化 ・降雪エリアの減少	・研究開発費の増加（耐熱性） ・売上の減少（冬タイヤ減産）	中～大
		海面の上昇	・天然ゴム収穫量減少 ・港湾、倉庫機能不全	・原材料価格の上昇（天然ゴム） ・売上の減少（タイヤ減産、生産停止） ・在庫、製品の毀損（洪水被害）	中～大
	急性	異常気象の増加 大雨、熱帯低気圧の増加、激甚化	・インフラ網の機能不全 ・輸送網の寸断、通動手手段の喪失 ・天然ゴム農園の冠水 ・海上輸送遅延、事故発生 ・需要動向の不透明化 ・事業所建屋の損傷・破損・倒壊、停電 ・大雨に特化した製品ニーズの増加 ・輸送網の寸断	・売上の減少（事業活動停滞、生産計画見直し） ・原材料価格の上昇（天然ゴム） ・物流費の増加 ・在庫、製品の毀損	中～大
			・差別化商品開発による競争力強化 （高耐久性、ウェット性能等）	・売上の減少（需供ミスマッチ、事業停止、機能停止） ・修繕費の増加（損傷建屋） ・研究開発費の増加（大雨対応製品）	中
	機会	慢性	気候パターンの変化、異常気象の増加	・売上の増加（販売量増）	大

<移行シナリオ>（凡例）短期：2027年頃、中期：2030年頃、長期：2050年頃

リスク/機会	属性	気候関連事象 （中～長期）	事業への影響	主な財務的影響	影響度評価
リスク	政策	カーボンライシグの導入	・各種サービスへのコスト転嫁 ・国境炭素税の導入 ・自動車関連の輸出品への環境関連税の導入 ・CO ₂ 排出権の取引価格の上昇	・物流費の増加 ・研究開発費、設備投資の増加（低炭素製品へのシフト） ・収益性の悪化（関税） ・排出権購入価格負担の増加	中～大
		ガソリン車、HEV車の販売規制 短～長期	・次世代車向けタイヤの需要拡大 ・タイヤ要求性能の変化 ・ガソリン車、HEV市場の縮小	・研究開発費、設備投資の増加 ・売上の減少（タイヤ需要減）	中
		使用原材料の制限	・規制対象の原材料を含む製品の販売制限	・規制対策に伴う材料費の増加	中
		カーボンフットプリントの義務化	・商品のライフサイクル全般におけるCO ₂ 削減要請 ・高CO ₂ 排出商品の淘汰、レベニューシフトリスク	・研究開発費の増加（リサイクル可能商品） ・製造原価の増加（原材料・調達先の見直し） ・売上の減少（製品シェア減少）	中
	技術	再生可能エネルギー技術の普及	・再エネ由来電力の供給拡大 ・原油産出量の減少 ・自動車メーカーの調達先への再エネ転換要請	・製造原価の増加（電力価格上昇） ・原材料価格の上昇（合成ゴムなどの石化品） ・研究開発費の増加（代替原料） ・収益悪化（自動車メーカーの要請非対応）	中
		省エネルギー技術、低炭素技術の普及 短～長期	・省エネルギー設備、低炭素設備の導入 ・燃料転換対応（水素ボイラーなど） ・新車の省エネルギー技術車に代える商品需要の拡大 ・低炭素技術を用いた商品需要の拡大	・設備投資、修繕費の増加 ・研究開発費の増加（商品開発） ・原材料価格の上昇（使用原材料の見直し）	中
	市場・評判	環境意識の向上	・CO ₂ 削減に寄与する製品需要の拡大による製品開発対応 ・CO ₂ 削減を重視した取引先の選定 ・CO ₂ 削減の取り組みを伝えるコミュニケーション活動 ・再エネ由来電力設備の導入要請	・研究開発費の増加（商品開発） ・売上の減少（嗜好変化によるシェア低下） ・原材料価格の上昇（原材料見直し、調達先選定） ・広告宣伝費の増加 ・設備投資・修繕費の増加（再エネ設備）	中
		EV車の需要鈍化	・EV専用製品の販売低迷	・売上の減少（EV専用製品）	中
		原材料コストの上昇	・採算性悪化による天然ゴム農園の減少 ・化石燃料由来の原材料価格の高騰 ・原材料メーカーにおける生産コスト上昇	・天然ゴムの産出量減少による原材料価格の上昇 ・石化品をはじめとする材料価格上昇による製造原価増加	中～大 中
機会	市場	環境配慮行動の高まり	・環境配慮による取引先の拡大 ・環境配慮製品の付加価値向上、需要拡大	・売上の増加（取引先拡大、付加価値向上）	大
		製品・サービス	次世代車の普及	・売上の増加（付加価値向上）	中～大
	資源効率	省エネ、効率化の促進	・省エネ、効率化設備の導入 ・省人化、従業員の職場環境改善	・収益性の向上（生産効率向上、不良率低減） ・製造原価の低減（作業効率・工場操業度良化） ・人件費の減少（離職率低下）	中
		リサイクルの活用	・リサイクル材料を用いた商品開発、シェアの獲得	・売上の増加（シェア拡大・付加価値向上）	中
		水使用量、消費量の削減	・水使用量削減設備の導入	・収益性の増加（水使用量減少）	中
	エネルギー源	化石燃料の価格高騰	・次世代車両市場の拡大	・売上の増加（次世代車両向け製品）	大